

秋の多門院歴史探訪ウォーク

水野拓也

1. 概要・挨拶まで

秋の多門院歴史探訪ウォークは、京都府立大学文学部歴史学科文化情報学研究室・じゃきりいわの会多門院支部・舞鶴地方史研究会が主催し、同日の午後の多門院報告会と合わせて行われた。

2017年11月23日（木）8時50分、多門院公民館に到着。すでに多門院歴史探訪の参加者が集合（写真1）。9時に多門院歴史探訪ウォークの開催にあたり、多門院公民館で案内人である「多門院長生会多門院の将来を考える会」会長の新谷一幸氏から挨拶があり、ウォークが開始される（写真2）。

2. 多門院歴史探訪ウォークの内容

○多門院橋（写真3）

9時20分：多門院公民館から10数分歩き、多門院橋に到着する。

橋では、昭和28年9月の台風による護岸工事や川の整備について紹介してもらった（写真4）。また橋のすぐ側には、多門院街道（旧道）がみえる場所があり、舞鶴若狭自動車道が建設される予定地であったが、地層の存在から反対側の山に変更されたと説明があった（写真5）。

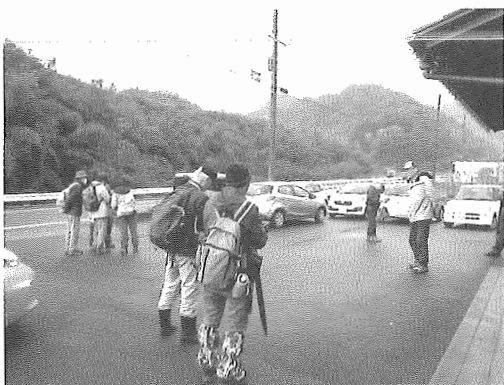


写真1 到着時の多門院公民館



写真2 開始の挨拶



写真3 多門院橋での説明



写真4 災害復旧並耕地整理工事の記念碑



写真5 旧道

○新舞鶴小学校多門院分校跡 (写真6)

9時25分：昭和46年(1971)に統合廃止された多門院の分校跡では、当時の小学校時代の思い出を交えながら、分校についての説明があった。当時は、運動場の代わりに近くの若宮八幡宮の境内が使用されていた。また映画の上映なども行われていたことを紹介。

○若宮八幡宮 (写真7～9)

9時30分：分校跡の北にあり、運動場として使用していた。管理している荒倉地区や新田義貞の血を引く家系などについての解説が行われた。

○地藏・常夜灯・道標 (写真10・11)

9時35分：荒倉地区の常夜灯は各小字にあったが、台風によって消失してしまったことや現存する常夜灯についての紹介があった。また向かいには道標があり「大正九年 左若狭道 右丹波道」と記載されていた。バス通行のために道を拡大したことが説明された。

○御堂 (山神) (写真12)

小字荒倉に祀っている。11月に祭事があり、文書蔵があったが今はなくなった。文書は現存している可能性があるとして紹介。

○中条 (写真13)

9時50分：かつて処刑場であったとされた場。夜には通らないように言われていたことなど思い出とともに説明があった。

○石仏 (写真14)

9時52分：室町時代から何百体と存在していた。

○多門地区周辺 (写真15)

この地区は多門という以前は、多聞と言ったこと。温泉があったことから湯ノ谷という地名があること。愛宕神社には多門院城跡があることなどの説明が行われた。

○興禅寺と毘沙門堂 (写真16・17)

10時：臨済宗天竜寺派興禅寺は天正元年



写真6 現在の新舞鶴小学校多門院分校跡地



写真7 運動場に使用された若宮八幡宮境内



写真8 若宮八幡宮



写真9 若宮八幡宮の狛犬と社殿



写真10 常夜灯と地蔵



写真11 道標

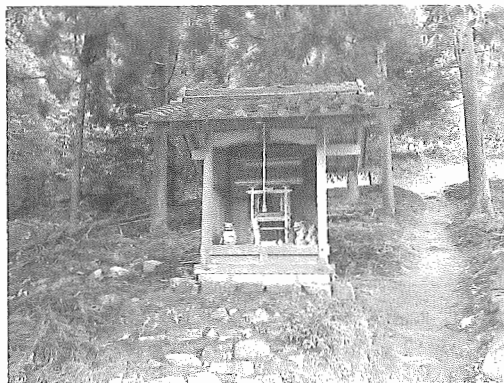


写真12 御堂 (山神)



写真13 中条

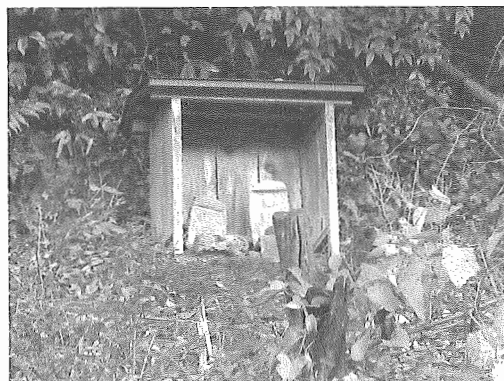


写真14 石仏

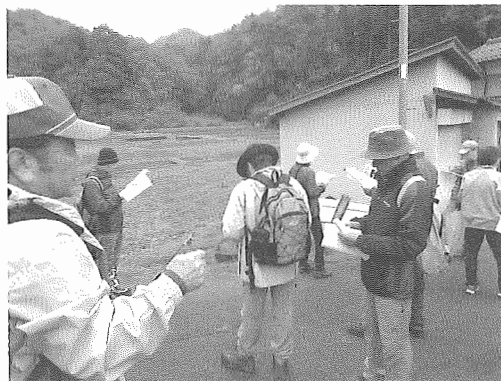


写真15 多門地区からの湯ノ谷などの説明



写真16 興禅寺

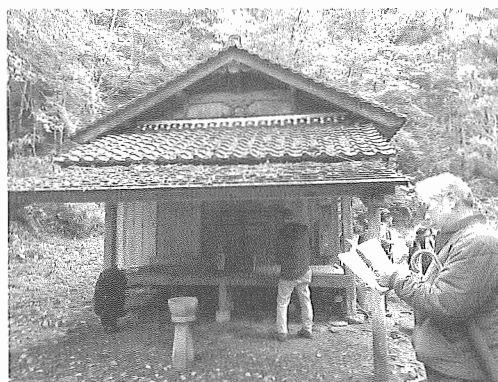


写真17 毘沙門堂



写真 18 ハシケ林

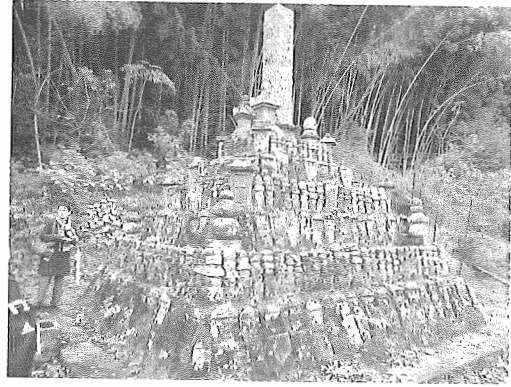


写真 19 無縁塔



写真 20 五輪塔

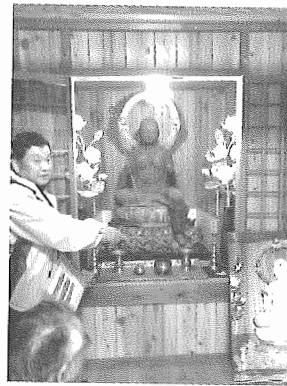


写真 21 延命地蔵



写真 22 自然石板碑

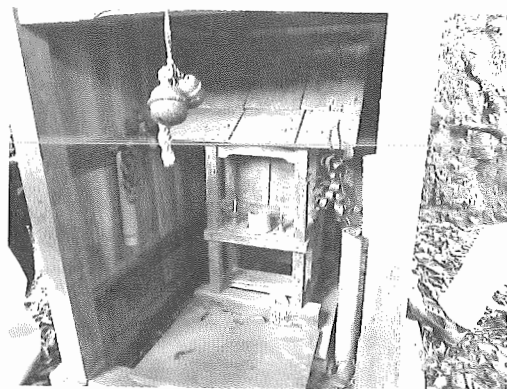


写真 23 御堂 (山神)

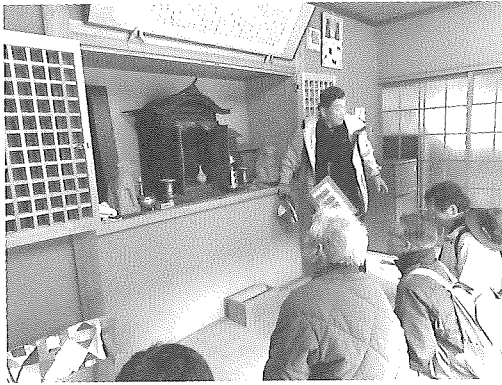


写真 24 黒部集会所

(1573) に再興され、本堂には仏像はなく、全て近くの毘沙門堂にあった。毘沙門堂にある毘沙門天は現在国の重要文化財である。他にも舞鶴市指定の多宝小塔もある。毘沙門天は、昔1度盗難にあうも、「多門院に戻りたい」と言い戻ってきたとし、複数の伝説があることを紹介してもらった。

○ハシケ林 (写真 18)

10時30分：現在は南東の山裾にある天蔵神社があった場所と考えられている。舞鶴若狭自動車道建設時に埋め立て用の土として掘削され、広場となりゲートボール場として利用されている。掘削時に遺跡として発掘調査があり、経塚の壺が出土したと説明があった。



写真 25 実際に狛犬を触らせてもらった

○無縁塔

10時43分：昭和9年(1934)に多門院中の無縁仏を黒部材木に集め、ピラミッド状に構成したもの(写真19)。五輪塔は、「火」の部分が横に長く、五輪が十字に見えるところから「かくれキリシタン」の里であるとの説明があった(写真20)。

○地藏堂 (写真 21)

10時55分：黒部材木にある舞鶴市指定文化財の「延命地藏半跏像」を祀る。安産及び長寿にご利益があるといわれている。戦時中に興禅寺の所有として登記された。製作年代は平安時代のもので、大正期には極彩色であったが、平成11年(1999)の解体修理で当初の素木状態の地藏菩薩にもどされたことを紹介された。

○自然石板碑 (写真 22)

地藏堂の参道には文明16年(1484)の板碑としては、舞鶴市で一番古いものがある。板碑には「大乘妙典 前住永安菊翁(花押) 文明十六年甲辰年八月二十六日」と刻まれているとの説明があった。



写真 26 蛇切岩伝説の説明

○御堂 (山神) (写真 23)

11時5分：小字材木・黒部で管理している。12月の第1週目の土曜日に、供物と竹と半紙で作った御幣を燃やす行事が行われ

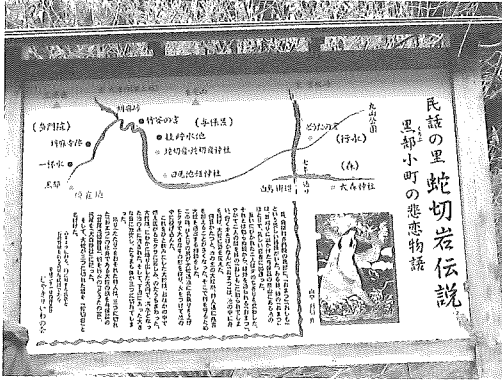


写真 27 蛇切岩伝説の看板



写真 28 埋蔵金伝説の説明 (池の谷)



写真 29 天蔵神社

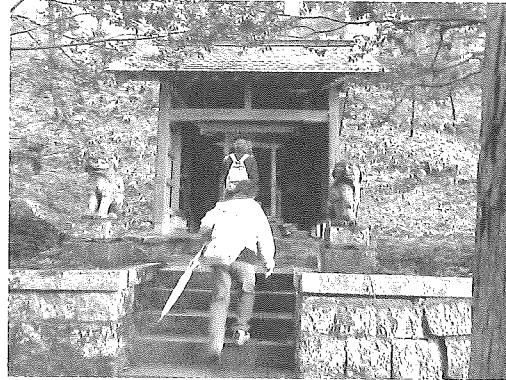


写真 30 天蔵神社の社殿



写真 31 常夜灯



写真 32 終わりの挨拶

ることを紹介。

○黒部集会所（写真 24）

11 時 15 分：小字黒部の集会所には、舞鶴市の指定文化財である毘沙門天立像があり、至徳 2 年（1385）と足に銘がある。さらに以前天蔵神社に奉納されていた狛犬がある。実際に参加者が狛犬を手に取りながら説明をうけた（写真 25）。

○蛇切岩伝説（写真 26・27）

小字黒部の姉妹が登場する大蛇の伝説。池に身を投げた姉が、村で大蛇になったと噂された。村人たちが大蛇を退治すると洪水がおこり、大蛇が下流で 3 つに断ち切れた。大蛇を退治したあと、大蛇を祀った日尾池姫神社（頭部）・堂田の宮（胴部）・大森神社（尾部）が存在することを説明された。

○埋蔵金伝説（写真 28）

11 時 40 分：小字黒部の奥に池ノ谷といわれる場所があり、昔白馬に跨がる白髪の老人が、1 駄の黄金をこの谷埋めたという伝説を紹介。

○天蔵神社（写真 29・30）

11 時 55 分：「丹後風土記」に記載がある。この材木にある天蔵神社には、「新田」と台座に銘がある狛犬が奉納されている。祭礼は、毎年 9 月中の日曜日午後 1 時 30 分から行っているとの説明をうけた。

○常夜灯（写真 31）

天蔵神社の近くにも常夜灯があった。

○多門院公民館到着・挨拶

12 時：多門院公民館に到着。最後に案内人の新谷一幸氏から挨拶があり、秋の多門院ウォークは終了した（写真 32）。

○調査記録

調査は、2017 年 11 月 23 日の現地調査、新谷一幸氏の「多門院歴史探訪」を参考にまとめている。

調査者 水野拓也（京都府立大学文学部歴史学科 4 回生）、有賀陽平（同 3 回生）、疋田彩花（同 3 回生）、廣瀬友佳（同 3 回生）

写真の注記のないものはすべて筆者撮影。

表紙の解説

	1	2	3
5		4	
(裏)		(表)	

- 1 丹後風土記残欠倉部山 = 高梯郷の中心地
(舞鶴市多門院字梯木林) 新谷一幸氏撮影
- 2 大宮売神社旧本殿の調査風景 近藤史昭氏撮影
- 3 稲の虫送り (舞鶴市多門院) 新谷一幸氏撮影
- 4 舞鶴湾口から青葉山など東地域の山 松岡秀雄氏撮影
- 5 京丹後市大宮売神社の境内 菱田哲郎氏撮影

京都府立大学文化遺産叢書 (2008 ~)

- 1 南山城・宇治地域を中心とする歴史遺産・文化的景観の研究
- 2 近世伊予越智島地域における流動する人・物・情報
—御用日記・諸願控の総合的研究—
- 3 八幡地域の古文書と石清水八幡宮の絵図—地域文化遺産の情報化—
- 4 八幡地域の古文書・石造物・景観—地域文化遺産の情報化—
- 5 丹後・宮津の街道と信仰
- 6 城陽地域の地域文化遺産—神社・街道の文化遺産と景観—
- 7 熊野の信仰と景観—宗教遺産学の試み—
- 8 石見銀山城の歴史と景観—世界遺産と地域遺産—
- 9 和束地域の歴史と文化遺産
- 10 八幡・南山城地域の寺院資料と信仰—京都府歴史資料調査—
- 11 舞鶴の文化遺産と活用
- 12 「丹後の海」の歴史と文化
- 13 古代寺院の儀礼・経営に関する分野横断的研究



京都府立大学文化遺産叢書 第14集 舞鶴・京丹後地域の文化遺産

編集 東 昇・菱田 哲郎
発行 京都府立大学文学部歴史学科
〒606-8522 京都市左京区下鴨半木町 1-5
発行日 2018年3月30日
印刷 サンケイデザイン株式会社
〒603-8165 京都市北区紫野西御所田町 14 番地 2